

# かいはつ

第8号

岡崎市特殊教育推進協議会  
昭和58年3月16日発行  
(題字 葵中 3年)



「土に生命をふぎこむ」



## 生きた目

特殊教育部長

山本 昇

「オ・ハ・ヨ・ウ」「おはよう」毎朝、特殊学級の子どもといきつをかわすとき、教室で授業を見ると、子どもたちの目は、いつも私を見つめる。私は子どもの生きた目が好きだ。

毎週、担任の記録を読むと、ひとりひとりの子の実態が、まるつきり違っていることがよくわかる。その指導の大変さ苦悩の大きさが心をしめつける。予想が全然はずれたり、思わぬことに興味関心を持って活動したりすることに驚く。こうなると一瞬一瞬、子どもを見のがさない目が必要となる。

つまり、先生の目が生きていなくてはならない。生きた目を持つために、まず先生自身の勉強が大切である。そして、日々の記録の累積も必要となる。特殊学級の先生は、最も秀れた教師であり、学校の先達となるくらいの意欲の持ち主でありたい。筋ジストロフィに若い生命を奪われた少年の詩の中に、こんな一篇がある。

自分の体をも とかしながら人につくそうとし  
 ところと汗を流しながら働く 最後には体が  
 なくなってしまうのに 短いその命なのに  
 悲しまず たえしのび 「ああ」 「ああ」  
 ろうそくよ ろうそくよ 僕はお前のようにになりたい

自分の人生を一本のローソクにたとえ、一生懸命に明るく強く生きた魂の詩である。

心身に障害のある子も懸命に生きようとしている。私たちの仕事は苦しく、周囲の無理解に怒りを覚えるときもある。然し私たちは生きた目を持った教師として精進したいものである。

# 手と足の運動

## 運動

連尺小

内藤 朋子

### ぎこちなさ

連尺小の身体虚弱学級は、五名の在籍で、ほとんどの児童が健康児と変わらないように見える。しかし、日常生活の中で、特に、手と足ともに動きが硬くぎこちない面が見られる。ひとつのことをするにも、時間がかかるのが、実態である。

そこで、週三時間の養・訓の時間を使い、手・足の基礎運動に当て、訓練している。児童ひとりひとりに、運動能力差があるため、同じことはできない。

### 訓練の目標と内容

手の運動としては、生活の基本的作業を取り上げ、手作業の基礎となるようなものを実施している。

内容としては、ひも・布まきとり、ひも結び、ねじはめ、ひもかけ、ビーズ通し、豆ひろい、ひも通し、ボタン・スナップはめ、などである。  
次に、足の運動では、身体のバランスをとり、つり合いよく

動かし、発育を促し、血行をよくすると共に、能力に応じた運動量を考えなければならぬ。心臓病の児童には、特に配慮し無理をさせないように、内容を選ぶようにしている。



内容は、竹踏み、自転車こぎ、平均台、亀の子ジャンプ、乾布まさつ、トランポリン等である。訓練が進むにつれ、手・足に少しずつ自信が付き、病気に對しても、克服の意欲が持てるようになってきた。これは、同時に、私達も念じていることだ。

### ねじはじめの作業

中でも、手の運動の一つ「ねじはじめ」は、指、手、手首の細かい動きのコントロールをねらう。つまんでねじる能力を養う。ゆっくりはめ、一つに一分以上もかかる。初めは、太く短く扱いよいポルト・ナットで練習する。びんの栓の開閉や、各種のねじなどから、高学年になるとドライバの使用にも発展させたいと思う。

### 健康管理第一

本学級の児童は、一日の生活の場が、全ての学習の場であると考えなければならぬ。常に症状に気を配り、健康管理を第一にし、無理をさせずに訓練することが、大切である。楽しみながら

### 養・訓の学習の中に

は、音楽的遊戯的な活動も取り入れ、多くの経験させ、楽しみながら学習できるように、考えなければならぬ。自分の気持ちや意志を、思いきり出せるような場を、多く持たせたい。

## 特殊学級への奇蹟

本年度、子どもたちへの暖かいプレゼントが二つあった。社会からの愛の手に、謝意を表したい。

岡崎ライオンズクラブより例年のように、小学校児童對

私の学校では、昭和五十五年健康教育全国最優秀校、五十六年健康教育全国発表会、五十七年全日音楽研究発表会をもった。

## すこやかな心と体

藤田 一生 岡崎小

特殊学級児も、全校体制の一員として、教師と全校児童のあたたかい人間関係のふれあいと行動を通して、日常生活に、生き生きとした雰囲気をかもし出した。また、学級児の体力づくりは、遊びを通して——と考えた。とかく、学校の隅にいて、活発に動き回ることが少なくなりやすい。そこで、興味を持つことにより、体力づくりを始めた。

① 駆け足訓練と歩行——毎朝登校したり、大松まで学級児と散歩する。散歩といっても慢然と歩くのではなく、急ぎ気味に速足で歩く。体育や養護・訓練の時間には、駆け足を必ずしている。  
② 全身を動かす訓練——行動に幅を持たせること、自分の力で自分の体を意識的に動かすこと。更に、集中力を養う目的でトランポリンを訓練として実施している。

学級児が遊びを覚え、熱中している時の顔は、実に楽しそうだ。一つのこと熱中し、気持ちを集中して、全身を動かすことで体力をつけている。

象に、社会見学機会をつくっていただいた。愛知こどもの国で、楽しい時を過ごした。  
加藤景堂氏（八幡町）より尺八・地唄三弦の保存、普及に貢献されている加藤氏から、全特殊学級に、ボールが贈られた。氏の第十回教育文化賞受賞を記念したものである。

### じてん車のり

広橋小 二年

きょう 学校で かって も  
らった ビカビカの じてん車  
が きました。そうじが 終わ  
ってから、みんなで じてん車  
のりを しました。

はじめに のった子は、ひと  
りで のれないので、先生が  
後ろに のって ころばないよ  
うに 足で ささえて、うごか  
して いました。

ぼくは、二番目に の  
りました。ひとりでの  
れるけど ときどき 足

が 下に ついて しま  
いました。なぜかとい  
うと、まだ ちよっと  
こわかったからです。

ろうかで のったので、  
じてん車が かべに ぶ  
つかって しまうかも  
しれないと 思ったから  
です。でも、とっても  
たのしかったです。

ます。

比較的恵まれた環境にある

## 働く意欲を引き出す

精神薄弱者授産センター  
友愛の家館長

神谷 邦男

社会自立に最も  
必要とされる、働  
く意欲を起こさせ  
る指導、即ち「労働、賃金、生活」

を目的とした作業指導であり

たいものです

授産生が重度化し  
多様化している今日  
であります。何と  
か目的に向かい、少  
しでも前進してい

作業の取り組み方  
としては、障害の程  
度による差はありま  
すが、意欲、持続性  
後始末等を中心とし、  
人間関係については、  
素直さ、協調性をと  
りいれ、指導してい  
るものであります。



障害者であっても、社会で生  
活する権利があります。しかし  
障害者は、社会の理解がなけれ

いきたいと、思っています。

ば、生活はできま  
せん。

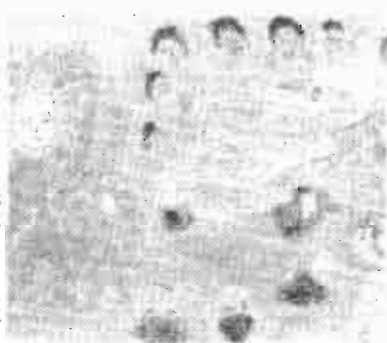
授産所としては  
厳しい社会を少し  
でも理解させるた  
めに、適切な指導  
により、労働し、  
労働の目的を勉強  
させ、社会復帰・  
自立に必要な  
人間関係にも力を  
入れ、社会で好か  
れる人間を育てて

## 子どもの作品



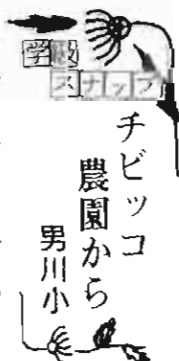
天狗と百姓 美合小 一年

ぎろんと大きな目に、高い鼻。  
勢いよく伸びた髪。のびのびと  
かけた天狗が、今にも跳びそう。



秋の遠足 城北中 三年

すこい車だ！見とれているみん  
な。愉快的サルも車も、穏やか  
な色彩で、丁寧に描かれている。



「わっ！すこいイモだよ。」

いつも作業の時間は、さぼって  
ばかりのAも、今日はさすがに  
大声を出してはまっている。爪の  
中まで土だらけにして…。つる  
を切る間も待ちきれないらしい。  
学級へ帰って、さっそくふか  
して食べる。どの子の顔も、み  
んなにここに…。満足感にあふ  
れている。

楽しい収穫を思い、今は北風  
の吹きぬける中で、ソラ豆・エ  
ンドウ・イチゴなどが、  
「早く春がこないかな！」  
と、じっとたえてまっている。



# 岡崎特殊教育の歩み(六)

## 学級の整備と充実

### 私が担任だった頃

元連尺小教諭

磯貝 一夫

連尺小・梅園小の特殊学級ができて、すぐには、他校での特殊学級設置の機運は生まれませんでした。が、附小に設置され、畑中先生が担任となって、翌年碧南新川小より杉江先生を迎えて二学級となり、続いて附中にも、石川先生・大浜先生を担任として、二学級が誕生しました。これに刺激されてか、六名・広幡・岡崎各小学校、竜海・矢

作・南の各中学校等に、続々と設置されるに至りました。

#### ◆共に励む

市の現職教育にも、特殊教育研究部を認められ、三河・県の特殊教育研究会にも入会して、関係の先生は、研修に励みました。特に、岡崎は附小附中の特殊があることよって、勉強にはめぐまれました。附属の先生の指導はもちろん、会場、教員の借用もしていただき、遅まきの岡崎も、三河の中心として、恥ずかしくないようになりまし

#### ◆共に磨く

研究のひとつに、特殊学級用夏休み日誌の編集・印刷・発行をして、三河部に配布しました。また、親の会五周年記念大会に「岡崎の特殊教育のあゆみ」を

### 戦後の部

発行しました。親の会の協賛を得て、特殊教育作品展を連尺小体育館・甲山会館等を会場として、毎年継続してきました。

#### ◆共に啓く

特殊学級の担任は、困難な学級経営と併せて、校内の職員、児童生徒・保護者と、地域住民の理解と協力が得られなくてはなりません。担任もクラスの子供も学校の中で孤立しては、学級経営は不能になります。この理解と協力は、学校によって差がありますが、岡崎では、そのために閉級になった例はありません。

#### ◆共に歩く

担任は、子どもの親たちとの話し合いを重視して、岡崎手をつなぐ親の会に、賛助会員として諸行事に参加しています。時間的には負担になりますが、親と手をつながねば、効果をあげる事ができないのです。

#### ◆共に創る

特殊学級にも、だんだん重度児合併症児の入級希望者が増加してきましたが、学業遅進児もいる学級では、受け入れが困難でした。親の会では、施設づくりの運動をして、精神薄弱児通

園施設「若葉学園」を岩津町に設置してもらいました。また附小附中の特殊学級も合併して、附属養護学校として、六供町に開校されましたので、岡崎の特殊教育も整備されました。この頃、愛知教育大学に特殊教育課程が設置され、特殊教育教員の養成に力を入れてきました。

### 昭和五十七年度

#### 就学指導委員会 活動報告

八月、十月の二回に渡り、のべ二週間に及ぶ教育相談会を経て、活動の結果、次のようである。

#### (一) 就学指導対象児童数

- ・ 新入学児 49名
- ・ 在学児 14名
- 計 63名

#### (二) 障害別人数(およその分類)

障 害 名	新入児	在学児
・ 視覚障害	1	0
・ 聴覚障害	1	0
・ 肢体不自由	13	1
(育い鳥学園7名含む)		
・ 情緒障害	6	4
(自閉傾向以外)	7	0
・ 知的障害	14	9
・ 言語障害	1	0
・ 病 弱	3	0
・ 重度心身障害	3	0
合 計	49	14

#### (三) 就学先(予定も含む)

学 校 名	新入児	在学児
・ 盲 学 校	1	0
・ 聾 学 校	0	0
・ 養護学校 (肢体不自由)	13	1
・ 養護学校 (精神薄弱)	6	5
・ 養護学校 (病 弱)	1	0
・ 教育大学附属養護学校	3	4
・ 特殊学級	12	4
・ 普通学級	10	0
・ 校内就学指導にて決定	3	0
合 計	49	14

他にも、活動内容として、説明会、養護学校見学会、実態調査、資料作りなどが行われた。

### 編集後記

去る十二月、美川中学校で、授業研究会がもたれた。「花びんを作ろう」の作業学習で、熱のこもった陶芸の授業が展開された。同校では「はにわ」の製作を初め、数々の焼き物の力作が生まれている。

全身で土をこね、輪積みを繰り返して、丁寧に仕上げていく。子らのほおは、紅潮し、輝いていた。



本による「8+5」の指導  
授業風景 S 37. 2